

希望と笑顔結ぶ裁縫

大船渡 避難の子どもが挑戦

芸術を通して被災者支援するプロジェクト「ARTS for HOPE(アーツ・フォー・ホープ)」は25日、現在も100人以上が身を寄せる大船渡

子どもたちは入り口前の屋外スペースに集まり、色とりどりの布地や毛糸、ボタン、ビーズなどを材料に裁縫に挑戦。おぼつかない手つきながら真剣な表情で針と糸を使い、人形や小さなバッグ、綿を詰めた枕などを仕上げた。

フェルト地を使い、かわいらしい小物入れを作った宮原伶奈さん(大船渡北小4年)は「あまりやったことがないけど楽しかった」と出来栄えに満足そうだった。

同プロジェクトの高橋雅子代表(東京都)は「上手に作るよりも気軽に作って楽しむもの。たくさん色を見ることが気分が晴れ、集まって手を動かすことで気持ち前向きになる」と説明する。



真剣な顔つきで裁縫に挑戦する子どもたち 大船渡市